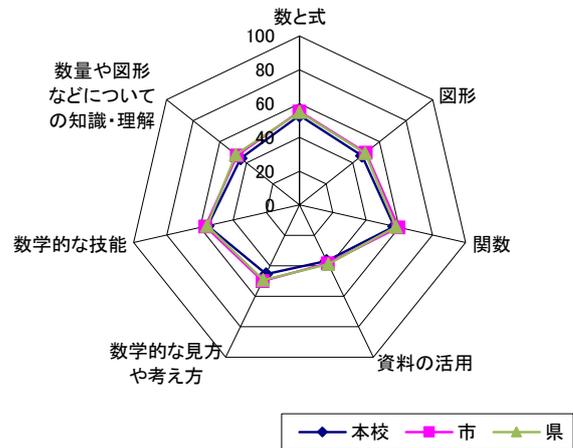


# 宇都宮市立鬼怒中学校 第2学年【数学】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	53.0	55.4	55.0
	図形	46.8	49.8	49.2
	関数	57.0	59.6	58.0
	資料の活用	36.7	38.3	38.9
観点	数学的な見方や考え方	45.4	50.0	49.3
	数学的な技能	55.4	56.7	55.7
	数量や図形などについての知識・理解	44.2	47.0	47.9



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<p>○項をまとめる一次式の計算、簡単な一次方程式、具体的な場面で一次方程式をつくる問題では、県平均を上回った。数と式の領域全体ではまだ2ポイント下回っているが、昨年度より3ポイント向上してきている。</p> <p>●分数を含む方程式では、市平均を7ポイントも下回っており、正解率もその偏差が大きい。</p>	<p>・授業における確認テスト、方程式の計算検定の実施や、自主学習用プリントの準備など、昨年度1年間の取組でその定着度は伸びてきていると思われる。より工夫改善をすすめ継続していく。</p> <p>・文字の式および方程式における分数の処理については、新単元への準備段階などで補充を行う。また、2年の連立方程式の計算において、その処理についていねいに指導し、1年の既習内容との関連を確認し、スパイラルに積み上げられるようにする。</p>
図形	<p>○平面図形においては、与えられた条件の作図やおうぎ形の面積を求める問題で、県・市平均を上回っている。このことが、数学的な技能においての平均正答率が今年度、県や市平均とほぼ同じになった要因の一つである。</p> <p>●空間図形のほとんどの問題が県平均を下回っている。特に円柱の展開図で、側面の横の長さを求める問題が10ポイント以上下回っているため補充が必要である。</p>	<p>・特に平面図形の技能においては習得が進んでいる。今後も「数と式」と同様な取組を進めるとともに、2年の論証指導の基盤となれるよう、ていねいな指導を心がけるようにする。</p> <p>・空間図形においては、ふりかえりシートの活用など自主学習や長期休業中の課題として復習の機会を多く設けるようにする。また、図形の見方としてシミュレーションを多く活用するなど、2年の授業においても改善を図る。</p>
関数	<p>○座標に合う点を選ぶ問題や比例のグラフから式を求める問題では、3ポイントほど県・市の平均を上回った。関数全体も県平均から1ポイント下回った程度にとどまった。</p> <p>●反比例の問題が県平均から4ポイント下回っている。また、水槽の深さが同じになるまでの時間の差を求める問題など活用では県平均を6ポイント下回っていて、全体的に苦手意識が感じられる。</p>	<p>・座標や比例などの基礎・基本はよく定着している。反面、反比例の式化はできていないので、その振り返りを2年の一次関数の学習中に行うようにする。</p> <p>・活用の問題で苦手意識が感じられるので、授業においてもできるだけ「日常の事象から数学へ」「数学を日常の事象へ」と関連づける学習を心がけるようにする。</p>
資料の活用	<p>○資料の活用では、度数分布表からある階級の相対度数を求める問題、一方の選手を選びその理由を説明する問題において、県および市の平均正答率とほぼ同じであった。</p> <p>●上記で平均はほぼ同じではあったが、その正解率は40%(説明にあたっては15%)と決して高いものではない。</p>	<p>・資料の活用における知識・理解や技能、そして考え方は、他教科や総合的な学習の時間などでも活用できるよう、機会を設けていく。</p> <p>・自主学習や長期休業での課題として、ふりかえりシート等を活用し、その知識・技能を高められるようにする。</p>